

Culture

渡嘉敷島に息づく 文化の営み

人口700人に満たない渡嘉敷島ですが、先史時代から人の営みがあり、舟越（ヒナクシ）貝塚などの遺跡があります。琉球王朝時代に代々渡唐船の船頭を務めた根元家を始めとして優秀な船乗りを輩出しており、17世紀半ばには沖縄と中国を往来する船の

監視を目的に烽火台（「ヒータティヤー」）が設置されています。

島人は昔からの伝統行事を大切に守り通し、旧暦の3月3日に行われる「浜下り」や同じく旧暦の6月25日に行われる「綱引き」などが今でも島をあげて行われています。

芸能活動も盛んで「青年会エイサー」や「慶良間太鼓」などが活躍し、7月に行われる「とかしきまつり」ではその勇姿で祭りを盛り上げています。



Peace

平和学習



多くの観光客が訪れる渡嘉敷島は、第二次世界大戦時の沖縄戦ではアメリカ軍の上陸があり、当時の人口の約半数にあたる368名の住民が「集団自決」で尊い命を奪われたという悲しい歴史を持つ島でもあります。島の中にはいくつ

も戦跡があり、戦争体験者や平和を願う語り部とともに平和学習が行なわれ「平和を希求する心」を育てています。